



シリーズ：帰国生大学入試（1） 受入れ大学のねらいと受験資格

INFOE（海外子女教育情報センター） 代表
松本 輝彦

海外の高校の卒業生を対象とした、日本の大学の特別選抜制度である「帰国生大学入試」について、入試の目的から実際の受験準備、そして受験までの詳細な情報を、シリーズでお届けいたします。

「帰国生大学入試」

海外の高校を卒業した日本人を対象とした、大学の特別選抜制度は、「帰国生入試」「帰国子女入試」「海外就学生入試」などと、大学により様々な名前で呼ばれます。このコラムでは、「帰国生（大学）入試」を使います。

はじめに：国・企業の要請

バブル経済のピークの時代、日本の企業の海外進出を促進するために、「企業戦士（駐在員）」を海外へ大量に送り出す必要がありました。駐在員が安心して家族を海外へ帯同するためには、海外滞在中・帰国後の子弟の教育機会の保障が必要でした。

子ども達の海外での日本語での学習機会を作るために、多くの日本人学校や補習授業校が海外で設立されました。

さらに、その子弟が日本に帰国した時に入学・編入できる学校の整備も必要です。小・中・高校に帰国子女受入校の制度が作られ、大学では帰国生入試が広げられました。

このように、国（当時の文部省）や企業・経済団体の求めに応じて、多くの大学が帰国生のための特別選抜制度を作りました。

なぜ、帰国生大学入試

なぜ、日本の大学は、帰国生のための特別選抜を実施するのかを少し考えてみましょう。

大学の多様化のために

従来は、学力検査だけによる新入生確保の方法がとられていました。近年は、単に学力検査だけでは測りきれない、多様な能力（学問・スポーツ・資格・学習意欲・社会経験・特殊技能など）を持った学生を求めて、特別選抜をする大学が増えています。

その一環の「国際化」として、外国語能力や異文化理解・国際的視野などを身につけた海外の学校経験者を「帰国生入試」で選抜するのです。

学生確保のために

また、最近では少子化による大学進学者の減少で入学定員を確保するのが困難な大学が多く出てきています。それらの中に、定員確保の方法のひとつとして、海外の高校卒業生に目を向けて「帰国生入試」を実施する大学があります。

大学の求めるもの

多様な学生募集の一環として帰国生入試を行っている大学は、帰国生に何を求めているのでしょうか？

具体的にみるために、募集要項の一例をみてみましょう。

上智大学

海外就学経験者入学試験（帰国生入試）

1. 制度の趣旨・概要

青少年期における異文化体験で身につけた個性、各国固有の教育制度下で培われた教養・知識など、国内の学習環境では修得し得ないさまざまな能力を評価する入試制度です。

この例から、上智大学では、「国内の学習環境では修得し得ないさまざまな能力」を評価し、具体的には「個性」「教養・知識」を求めています。現実的には、大学入試ですから、海外の学校、特に高校生活、主として勉強で身につけた能力を求めているのです。

もちろん、日本の大学ですから、一部の学部を除き、日本語の能力や日本語での基礎知識・学力を前提としていることに間違いはありません。しかし、もし、日本の高校生と同じレベル・内容の能力を求めるならば、帰国生入試を実施する意味はありません。誤解の内容にしてください。

☆

以上、簡単に、帰国生入試を実施する大学のねらいをみてみました。大学により大きな差があるのは現実ですが、帰国生を大切に教育しようとする大学はここで述べたような基本的な考え方を持っていることを理解してください。